

マグちゃん通信

2018 10 - 11 vol. **52**

絵本作家インタビュー えがしらみちこ

特集 絵本をつくる



寄贈絵本のご紹介

ご寄贈いただいた最新絵本の中からスタッフのおすすめの絵本をご紹介します。



『きみちゃんとふしぎねこ』
藤原ヒロコ / 作・絵
ひさかたチャイルド



『なくのかな』
内田麟太郎 / 作
大島妙子 / 絵
童心社



『こわめっこしましょ』
tupera tupera / 作
絵本館



『どしゃぶり』
おーなり由子 / 文
はたこうしろう / 絵
講談社



『せいかいえるかいぎ』
近藤薫美子 / 作・絵
ポプラ社



『ガラスのなかのくじら』
トロイ・ハウエル&リチャード・ジョーンズ / 作
椎名かおる / 訳
あすなろ書房



『もぐらはすごい』
アヤ井アキコ / 作 川田伸一郎 / 監修
アリス館

公園や畑などで見かける盛り上がった土。これはもぐらのしわざです。もぐら知らない人はいないけれど、もぐらのくらしは謎だらけ。どうやって土をほるのかな？どんな一日を過ごしているのだろうか？何を食べているのかな？トンネルの中はどうなっているのかな？など、数々の秘密がユーモラスに描かれています。もぐらってすごい！

絵本館日記



7月21日(土)

パチパチと鳴るのは拍手か、はたまたカエルの跳ぶ音か。「おしま国際手づくり絵本コンクール2018」の表彰式。最優秀賞は新田一良さん作「おてらのはのけのぼり」にて。磁石を使った跳躍ギミックは音よし、小気味よし。式後は受賞者の皆さんと審査委員の先生との一対一の講評タイム。実り多く、活気のある一日だった。

7月28日(土)

CGワークショップに野生のカンディンスキーが現れた！縦横無尽の色彩！かの少年の手に掛ければゾウさんスタンプも幾何学アートに変わる！なにかと具象絵画がもてはやされがちなギンズ界隈。うまく描くとは写真であり、モチーフは何かと必ず尋ねられる。そんな退屈な世界に風穴を開ける少年との出会いに胸が熱くなった。

8月12日(日)

ダンボール迷路。この響きだけで心が踊るのに、なんと今日は落書き大会があるという。思い思いにクラフト地を埋める子どもたち。無味乾燥の工業品がまたたく間にロマン基地に。こんな迷宮ならミノタウロスも曲がらず幸せに暮らせたらうにな、なんてことを思いつつ、幼いテセウスとアリアドネの迷宮攻略を上階から見物した。

8月19日(日)

年に一度の絵本館まつり。「みそまめ」「もといぬ」。三遊亭良楽さんの落語に笑い、笑いヨガが更に笑いを誘う。落語のお供に扇子づくり、着せ替えスタンプで落語家になれるグッズ制作。ミニ縁日あり、おはなし会あり、カフェも一日特別メニューで絵本マーケットも大盛況。絵本館を揺るがす愉快な一日だった。

8月23日(木)

恐竜少年が現れた！ティラノとアンキロの化石を描いている。出来上がったのは自然科学の顕現だった。鉛色の化石。広がる大草原。補色の太陽が目焼き付く。色とりどりの点線に繋がれ、やや離れて木星と土星……ん？待てよ？この点々……うわ！水星と金星と地球と火星だ！スケールが大きい！いや合ってる！脱帽だ！

(記録員)

利用案内

開館時間	9:30~17:30	交通案内	北陸自動車道小杉I.C.より車で10分 富山きときと空港より車で40分 あいの風とやま鉄道小杉駅より車で5分 ※新幹線はJR富山駅またはJR新高岡駅で下車 富山地鉄バス・富山高岡線「赤井口」下車徒歩7分
休館日	毎週月曜日(祝日の場合翌日) 月1回資料整理日 年末年始(12月28日~1月4日)	駐車場	約60台
入館料	大人510円、中学生310円、小学生100円 ※団体20名以上は割引あり 団体幼児はひとり50円 ※各種福祉手帳をお持ちの方は無料	貸館	カフェギャラリー、シアターは貸しスペースです。 個展、コンサート、発表会などにご利用ください。
フリーパス	個人フリーパス 年間1000円 親子フリーパス 射水市在住で、小学生未満のお子様の保護者の方は無料 いみず子どもフリーデー 射水市在住の小中学生は土・日・祝日に限り無料	講座	絵本作りや読み聞かせ、講演などの出前講座を行っています。



射水市大島絵本館
OSHIMA MUSEUM OF PICTURE BOOKS

マグちゃんは絵本館のシンボルマークです

〒939-0283 富山県射水市鳥取50
TEL 0766-52-6780 http://www.ehonkan.or.jp
FAX 0766-52-6777 E-mail ehonkan@po9.canet.ne.jp

えがしらみちこ

「どんな人に何を伝えたいか」を
軸にした絵本づくり。
絵本を読んで、
親子の時間を楽しんでほしい。



photo by 後藤利江

えがしらみちこ プロフィール

絵本作家。1978年 福岡生まれ。静岡県三島市在住。熊本大学教育学部卒業。
主な作品として、『あめふりさんぽ』『さんさんさんぽ』『ゆきみちさんぽ』『はるかぜさんぽ』（講談社／全国学校図書館協議会選定図書）、『なきごえバス』（白泉社／第9回MOE絵本屋さん大賞2016「ハバママ賞」第1位）、『なきごえたくはいびん』（白泉社）、『いろいろおてがみ』（小学館／全国学校図書館協議会選定図書）、『あのねあのね』（あかね書房）、『あなたのことがだいすき』（原案・西原理恵子／KADOKAWA）など。『はこちゃん』（文・かんのゆうこ／講談社）、『せんそうしない』（文・谷川俊太郎／講談社）、『おかあさんのいのり』（文・武鹿悦子／岩崎書店）、『まだかなまだかな』（文・竹下文子／ポプラ社）の絵を担当。また、雑誌や教科書などの挿絵も手がけている。

絵本原画展開催

平成30年9月22日(土)～11月21日(水)

原画展示絵本



「せんそうしない」(講談社)
こどもと こどもは せんそう
しない／けんかは するけど せん
そうしない／せんそうするのは
おとなと おとな 詩人・谷川俊
太郎とのコラボで生まれた平和と
戦争を考える絵本。



「なきごえたくはいびん」
(白泉社)
はるちゃんとおぶたちゃん、な
きごえたくはいびんでみんなの荷
物をお届けします。ちゅーちゅー、
ちゅんちゅん。だれのおうちへ
お届けものかな？動物のなきご
えとかわいなお家を楽しめます。

秋のギャラリーでは、詩も絵も印象的な『せんそうしない』と
子どもや動物たちの笑顔があどけない『なきごえたくはいびん』の2冊をご紹介します。

えがしらみちこ先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

6年前に娘を出産したことです。それま
では、イラストレーターとして絵のお仕事を
していたのですが、お話はまったく作れませ
んでした。娘に読み聞かせをしているうち
に、絵本の素晴らしい奥深さにふれて、わ
たしも作りたいという気持ちが高まったこと
が一番のきっかけです。

画材は何を使っていますか？

主に透明水彩を使っています。最近は、
出した質感に応じてクレヨンや鉛筆、ペン
なども取り入れたりしています。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や
思い出を教えてください。

「せんそうしない」
谷川さんのテキストが完成されていたの
で、どんな絵を添えると文の魅力がより生
きてくるか悩んで描きました。小学生が帰
宅している日常の風景が次のページをめく
ると瓦礫になっているというシーンは、何度
も描きなおして苦しみながら描いたところ
です。

「なきごえたくはいびん」

なきごえがある動物が、その動物だから
こそお家に住んでいるという特徴を4パ
ターン考えるのが難しかったです。たとえば、
クマはハチミツが好きというイメージだから
蜂の巣みたいなお家…と家を考えても、クマ

のなきごえが一般的に認識されていなかっ
たり、鳥を木のお家にするサルも木のお家
で重なっちゃったり、数ヶ月ずつとなきごえ
とお家のことを考えて過ごしていました。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象
深い絵本は？

「あめふりさんぽ」(講談社)です。はじめて
お話も絵も担当したデビュー作になります。
娘を抱っこしてお散歩したときに「雨だよ。
絵本でみたね」とか「あめふりさんぽ ちゃ
ぶちゃぶちゃぶ」とお話ししながら一緒に歩
きたいなと思って作った作品です。8月に
「あきぞらさんぽ」(講談社)が出て、春・夏・
秋・冬と梅雨の5つの季節でおさんぽシリ
ーズが完結したので、感慨深いです。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

「どんな人に何を伝えたいか」を一番の軸に
しています。お話を修正していくときにその
軸さえずれなかったら大丈夫と意識しなが
らつくっています。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

絵本を読んで、親子の時間を楽しんでほ
しいというのが強い思いです。私自身、母に
絵本を読んでもらった思い出は、ずっと心に
残っていますし、「自分は愛されている」と思
うひとつの経験だと思っています。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

いろいろな描きたいテーマがあつて、なか
か時間と手が追いつかなくて困っています。

自分のペースで納得いく絵本を出してい
きたいですね。

ご興味についてお聞かせください。

インスタグラムやツイッターなどのSNS
に「今日の娘ちゃん日記」という育児日記を
アップすることです。「気分転換でも絵を描
いているのね」と笑われていますが、みなさ
んの反応も嬉しくて時間ができると描いて
アップしています。

お好きな言葉を教えてください。

「千里の道も一歩から」
すこーしずつ進んでいくのが好きです。

ファンの方へメッセージをお願いします。

たくさんある絵本の中から、私が関わった
1冊に触れてもらえて嬉しいんです。サイン会
など感想をうかがえる機会が活力的になつて
次につなげていきます。本当にありがとうございます。

10月6日、私が住んでいる静岡県三島市
に絵本専門店「えほんやさん」を開きます。
絵本を介して人と人、人と文化が繋がる
場所をつくりたい、それをきっかけに三島を
「本の街」にしたい。そして、日本がもっと絵
本や文化・芸術に理解のある国になつてい
きたいな…と、大きな夢を抱いています。
これから、みなさんのご協力・応援をよろ
しく願っています。

えがしらみちこ先生、ありがとうございました！

えがしらみちこ先生サイン入りの 絵本を3名様にプレゼント



「なきごえ
たくはいびん」
(白泉社)

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、
ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
えがしらみちこ サイン本プレゼント係
締め切り 平成30年12月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。

9/22(土)・23(日) えがしらみちこ先生が来館されます！

22(土) 10:30～ テープカット、おはなし会
14:00～ ワークショップ「くるまのハンドルづくり」
★11:00～/15:00～ サイン会
23(日) 10:30～ ワークショップ「くるまのハンドルづくり」
★11:30～ サイン会

*参加費は無料(要入館料)、ワークショップのみ別途材料代をいただきます。
*サイン会は当館ショップでえがしら先生の絵本をお買い上げの上ご参加下さい。
*ワークショップは各回とも親子10組(先着順、予約受付中)。
(詳細は絵本館までおたずねください)

おおしま 国際手づくり絵本 コンクール 2018

結果発表

たくさんのご応募ありがとうございました！



他、奨励賞10名、入選32名の皆様、おめでとうございます。
(応募総数259点)



『おてらのいけのほとりにて』
[しかけ]
新田 一良
(埼玉県)



『ぼくのかえり道』
[しかけ]
山口 菜摘
(東京都)



『しりとりにきょうだい』
[一般]
よこやま ちぐさ
(北海道)



『壇ノ浦』
[しかけ]
長澤 千恵美
(大阪府)



『おおきくなったら』
[しかけ]
しょうじりお
(東京都)



『きょうのおやつはなに？』
[一般]
たにぐち かずこ
(大阪府)



『いっしょに さがそ』
[一般]
山台 直子
(大阪府)



『Dream Doll』
[しかけ]
かの あき
(兵庫県)

イベントレポート②

「忍者ショー」 6/24

絵本館シアターに大阪から4人の忍者参上。盗まれた家宝の巻物を取り戻すという物語を関西弁でユーモアたっぷりに演じました。泥棒役の悪役忍者が登場すると会場の子どもたちは「こっちに来るな!」と大騒ぎ。でも最後はみんな仲良くハッピーエンド。カッコいいアクションあり、サイリウムを持ってのオタ芸あり、奇想天外な演出で満席の会場を沸かせます。

またショーの後は忍者とチャンバラ体験や忍者の撮影会が行われ、子どもたちは普段なかなか会えない忍者とのふれあいを満喫していました。



イベントレポート①

公開講座「絵本をひらく」
6/22、6/29、7/6、7/13



昨年ひき続き、公開講座「絵本をひらく」を開催しました。定員を超えるお申し込みがあり、絵本に興味や関心をお持ちの方の多さが伺えました。

絵本専門士の堀地はるみさんは、「絵本の楽しさ」を絵本のみならず、児童書や一般書まで、数々の書籍の紹介を通して伝えて下さいました。高志の国文学館事業部長の生田美秋さんによる「読み聞かせ」意義、選書の講義では、子どもの成長と発達に合った絵本選びが必要というお話に受講者の皆さんは深くうなずいていらっしゃいました。

「読み聞かせ2 実践」では富山市立図書館よみかかせの会代表の松崎訓子さんが長年にわたる経験に基づいた読み聞かせのノウハウを伝授。受講者の読み聞かせの良点と改めるべき点を的確に指摘されました。そして「絵本の可能性」をテーマに、児童書専門店「ちいさいおうち書店」(長野県松本市)店長の越前一夫さんが「ブックトーク」や「ビブリオトーク」など、読み聞かせとは異なる絵本の魅力を伝える方法を実演して下さいました。

出版されました!

おおしま国際手づくり絵本コンクール2017最優秀賞

『麒麟のスパゲティと
かめさんサラダ』

レザ・ダルバンド/作 はたこうろう/訳

★当館ショップにて販売中。税込1,080円



「だいたいおつかいのいかたろう」(鈴木出版)
「くつしたはく」(鈴木出版)

展示原画

平成31年1月27日(日)

ザ・キャビンカンパニー
絵本原画展

とき/11月23日(祝金)~

平成31年1月27日(日)

ギャラリー

とき/平成31年1月5日(土)~

1月27日(日)

年賀状展

とき/12月15日(土)~12月27日(木)

まるまんのフェアトレード展

とき/12月1日(土)~12月14日(金)

千代紙で描く四季折々の世界

とき/12月1日(土)~12月14日(金)

カフエギャラリー

田島徳子

とき/平成31年1月6日(日)

ジャンボかるた大会

とき/平成31年1月6日(日)

※年中・小学3年生まで参加できます。

出演/竹内祥子(ピアノ)ほか

料金/大人1500円

3歳以上・高校生600円

絵本館のクリスマスコンサート

とき/12月9日(日)

シアター・パフォーマンスホール

12・1月イベント



北沢 彰利(いぶき彰吾)
黒姫童話館 館長

特集 / 絵本をつくる

協働の魅力から離れられません

童話作家としてのペンネームを持ち、絵本ミュージアムに勤めてはいるのですが、絵本について語れることはそう多くはありません。

書くことと語ることは、やはり別物です。数年前短大で絵本の講座を持ちましたが、自分の絵本知識の少なさを浅きに、毎回冷汗の出る思いでした。

ですから、この稿でも絵本についての専門的な話はできません。私が伝えたいのは、絵本づくりの楽しさです。私はテキストを書きますが、絵本は画家なしには成立しません。編集者も共に作る同志です。

テキストを編集者と共に分割してレイアウトし、画家へと渡します。私のものは、物語性のある作品ですので、テキストの量も多く、定められた十五場面におさめていくのは、結構苦勞します。「読みやすさは空白部分の多さだ」と思っていますので、一字でも多く削ります。

画家からラフが届けられたときには、まちがいないと感動します。鉛筆描きではありませんが、自分のテキスト以上の場面が、そこに描かれているのです。少なくとも私の場合はそうでした。

作家にとって、自分の作品を理解してくれること程うれしいことはありません。批判は、それが正しくとも心折れます。もやしのような心なのです。ですから、作者

の予想をこえる絵は、作品が羽ばたくよううれしさを感ぜさせてくれるのです。

編集者のオッケーが出ると、いよいよ本描きに入ります。これで完成かという、そうではないのです。編集者の粘り強い作業が入ります。「テキストでいうこれと絵のこの部分は合っていないね」など。ときには、テキストを書きかえることもあります。

こうして色校正までたどりつき、仕上げに入ります。表紙のデザイナー案が示され、協議して選びます。本文の字体系もそうです。表紙裏のデザインと色にも気をかけます。

この行程を、私と画家と編集者の協働作業で行っていくのです。絵本はひとりではつくれません。また、ひとりではないから、他の読み物本にない楽しさがあるのです。

もっとも、全ての作家がそう思っているわけではないでしょう。特に今は、才能あるイラストレーターがひとりで行く絵本も多くあります。

何を気楽なことをという声も聞こえて来そうです。しかし、私はこの協働の絵本づくりの魅力から離れることはできません。だって、絵を描けないのですから。

私のおすすめ絵本

『戦火のなかの子どもたち』
岩崎ひろ子/作
岩崎書店



今年生誕100年を迎えた岩崎ひろ子。各地で記念行事が行われています。ひろ子が願った子どもたちの幸せと平和、その願いが詰まった一冊です。黒姫童話館には、ひろ子が過ごしたアトリエ黒姫山荘が保存されています。

『いないいないばあ』
松谷みよ子/文
瀬川康男/絵
童心社



松谷みよ子の「あかちゃん絵本」シリーズ代表作。600万部を超える発行部数で、今もブックスタート不動のレギュラーです。黒姫童話館には、常設展「松谷みよ子の部屋」があります。その生涯と制作の秘密にふれてください。

『母ぐま子ぐま』
椋 鳩十/作
村上康成/絵
理論社



椋鳩十作品新装版の発行が続いています。時代を超えて読み継がれる椋作品の魅力とは。動物を通して語られる永遠のテーマ、ときどきする展開、現代の子どもをも惹きつける簡潔な文体でしようか。長野県出身の作家です。

『こっばとじっさま』
いぶき彰吾/文
北原志乃/絵
はるき書局



長野県の南端根羽村に生きる樹齢2000年に及ぶ「月瀬の大杉」を舞台として、村の伝承を盛り込んだ物語。巨木シリーズの一冊として依頼を受け書き上げた私の一冊です。画家北原志乃さんにはいつも助けられています。

『こんにちは』
わたなべしげお/文
おとも やすお/絵
福音館書店



あらゆる人に向かって「こんにちは」と呼びかけるくまくん。幼児の生き生きとした姿と、それに反応するおとなの、行き交う心を描いた絵本。童話の森ギャラリーでは、画家大友康男の常設展を行っています。

『はだかのサイ』
ミヒヤエル・エンデ/文
ヨッヘン・シュトゥーアマン/絵
佐々木田鶴子/訳
フレーベル館



アフリカの草原に、でっかいサイがいた。サイは、自分のことを、頭もいい、力もある、いちばんえらいのは、おれさまだ、と思いこんでいた。黒姫童話館の中核は、エンデの展示室です。今も多くのエンデファンが世界中から訪れています。

